

第2回郡上市総合教育会議 要録

開催日時：令和8年2月16日（月）15:30～17:00

開催場所：郡上市役所本庁舎4階大会議室

出席者

構 成 員：市長 山川 弘保 教育長 熊田 一泰 教育長職務代理者 原 初次郎

教育委員 水野 秋子、澤崎 美智子、畑中 敦

オブザーバー：副市長 置田 優一 教育次長 長尾 実

陪 席：教育総務課長 和田 幸宏 学校教育課長 永井 伸幸

学校教育課指導係長 中澤 栄作

事 務 局：市長公室長 河合 保隆 企画課企画調整係長 蓑島 誠意

傍 聴 者：なし

- 【報告】（1）美並地域統合小学校の進捗について
（2）郡上市内中学校・高等学校の連携について
（3）郡上市内の学校における不登校の現状と対応について

1. 開会 15:30

市長公室長

本日は、「美並地域統合小学校の進捗について」、「郡上市内中学校・高等学校の連携について」、「郡上市内の学校における不登校の現状と対応について」の3つの議題について報告させていただく。傍聴希望者はないが、3つ目の議事については、その内容に慎重に扱うべき情報が含まれており公開になじまないため、非公開とさせていただくのでご了承願いたい。

2. 市長あいさつ

昨日の郡上教育フォーラムに引き続き、この総合教育会議にもご出席いただきありがたく思う。昨日は、小中学生の素晴らしい発表を聞かせていただき、やはり教育はこれからの郡上の根幹であると感じた。今後もこの総合教育会議で色々なことをお決めいただき、議論いただきたいと思っている。私が市長就任後の思い切った転換として、子どもたちのための予算の分配ということがある。郡上に魅力がなければ子どもたちが将来戻ってきてくれないと考えており、大きく舵を切ってこれからも改革を進めなければならないと思っている。本日もいくつかの報告があるが、不登校に関しては、郡上北高校の高野校長の下で、不登校の生徒が1人もいないという驚くべき教育をしておられ、ここに大きな鍵があるだろうと考えられるし、小中学校もそれをどう吸収して展開するかということや、郡上市と岐阜県との垣根にとらわれない中学と高校の連携をさらに強めることが必要となるだろう。本日も忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

3. 教育長あいさつ

総合教育会議は、何年も前に起こった滋賀県のいじめの事案があり、その後、文科省の改革により教育長の任期が3年になって、郡上市においても市長を交えて教育について語ろうということで生まれた

経緯がある。そして、その間に教育委員会でもかなり改革は進んだ。市長がいつも言うように、これからの郡上市にとって教育が占めるウェイトは大きい。人づくりはもちろん、高校との連携や子どもたちが郡上を好きになり戻ってきてもらうための取り組みは重要であり、その具体的な方法として、学校統合や高校への給食提供などを進めているところである。これからの郡上市をどうしていくのか。そのために教育はどうあるべきで、何に注力すべきか。そういったことを市長部局と教育委員の方々と交えて語り、機能させていくための会議でありたいと思っている。本日もぜひご意見をいただきたくよろしくお願ひしたい。

4. 議事

(1) 美並地域統合小学校の進捗について

教総課長： (美並地域統合小学校の進捗について資料1に沿って説明)

原委員： 経費の高騰が大変かと思うが、美並小学校は地元の勢いというものを感じているので、子どもたちが誇りを持てる学校となっていくよう、精一杯の整備を是非お願ひしたい。

教総課長： 現在の校舎から持ってこられる状態の良い備品なども十分活用しながら、節約できる部分は節約して進めていきたいと思う。

畑中委員： 美並地域統合小学校の準備委員会に出席させていただいているが、委員長を中心に和気あいあいと積極的に意見を出し合いながら準備が進んでいるところである。この新しい学校に地域の方々が集って、色々と学校に対して意見を言ったり、一緒に活動したり、そういった拠点になっていくよう今後も期待したい。

水野委員： 先日、三城小学校へ学校訪問に伺った際に、廊下の老朽化を目にして、同じ市内でも学校によって環境が大きく違うのは申し訳ないことだと感じた。新しい小学校は温かみがある木造校舎ということで大変ありがたいと思う。美並は温泉施設や商業施設が新しくなり、気候も暖かく、これから益々郡上の中でも魅力ある場所になってほしいと思う。
また、私が参画した大和統合小学校の準備委員会での経験上、今後、校歌や校章を作成していく際には、これから先ずっと続いていくものとして色々な思いが込められたものであってほしいと思う。作成するデザイナーの提案などもあると思うが、最終的には必ずその意味合いを教育委員会でしっかり確認して決めていっていただきたい。

澤崎委員： 建築資材はかなり高騰していると聞いたので、普通であれば規模や方法を見直すこともあると思うのだが、校舎のイメージや設計図は当初と変わらないままであるため、美並小学校を大切に思い、新しく作り上げたいという市の姿勢を感じた。市民の方々にも、こういった予算上の努力などを広く知らせ、市が本気で考えて作っているということを伝えていけば、皆さんが納得し、見る目が変わり、良い効果があるのではないかと思う。

市長： 私が市長となり1年でこの美並地域の学校統合に着手することができた。皆様のご期待に応えなければならないと思う。また、令和8年度当初予算には、大和小統合後の小学

校庭を利用した住宅地造成のための調査費を計上することにしており、これがうまくいけば、美並もそれに準ずる形で、また地域へお願いをしていくことになるかもしれない。学校建設と住宅施策は一体的に考えることが原則だと思っている。皆様にお諮りする際にはまたよろしくお願ひしたい。

(2) 郡上市内中学校・高等学校の連携について

学教課長： (郡上市内中学校・高等学校の連携について資料2に沿って説明)

畑中委員： 高校への給食の提供は、親の立場からは大変助かることであり、近くの高校に通うメリットとして高校選びの重要な一つのポイントになると思う。

澤崎委員： 郡上北高校と連携した取り組みの一つだと思うが、どうして郡上高校には提供がないのかとの疑問を持つ保護者も出てくる可能性があるため、その点についてはきちんと納得できる説明をした方がよいと思う。

水野委員： 市民の方々は、現在の郡上北高校と白鳥中学校の連携体制をそれほどご存知ないということを確認だと思うので、そういった説明は広く必要だと思う。

給食の提供については、今の保護者は弁当を作る事に抵抗があるという声もよく聞くため、郡上北高校を残していくためには、魅力を感じる一つの要素になると思う。

原委員： (高校への給食の提供は) こんな手があったのかと思ったが、これによって郡上北高校に子どもたちが来てくれるのならば、ぜひとも進めてほしい。

市長： 郡上北高校については、県で廃校の話が出てからかなり時間が経っているが、知事が変わったこともあり、今のうちに何らかのアクションを起こすべきと考え、まず給食の提供という案を挙げさせてもらった。そしてもう一つ、私立高校の授業の無償化が始まることもある。現在、郡上市から100人前後のお子さんが市外高校若しくは通信制高校へ通学している。高校を残すために、そして将来若者に残ってもらうためには、その思いを強く外へ打ち出していく必要があると思っているし、これは県教委との垣根を超えることにもなるので、知事ともよく話をしていきたいと思っている。また、高校生ということで、給食の量や配膳方法、食べる時間帯、アレルギー対策のことなどもあるため、教育委員会の方でもそういったことも含めてスピーディにやってほしいと思う。

教育長： 郡上を持続可能にしていくためには、高校生が地元にいることがとても大事だと思う。毎年約100人の子が市外へ出てくと思うが、私が校長だった頃も80人から100人程度だったので、子どもの数が減っていることを考えると割合は増えているはずである。これはスポーツや勉強、そして通信制など、今の子どもたちの進学目的の多様化が理由だろう。多様化が悪いことではないと思うが、郡上に残ってもらうためには、郡上北高校で実施しているデュアルシステムなど、就職に役立ち地元で愛着を持ってもらうための仕組みは大切であるし、中学校の不登校を減らすことも通信制高校を選択する生徒を減らすという面で効果がある。そして、今回話のあった給食の提供も大きな魅力になると思う。また、中

高連携については、郡上北高校が高鷲や大和と連携していくこともよいことであり、その先には郡上高校と八幡など南部の中学校との連携を実現していくようなシステムの構築など、先を見据えたことを考え、市長部局や高校と協力しながら地元の高校を選ぶ生徒を増やしていきたいと思っている。

市長： 事務局の説明の中で、今後の見通しとして、「郡上市 高校の望ましいあり方検討委員会」の設置が提案されたが、この委員会設置の是非について皆様からご意見をいただきたい。

(異議なし。全会一致で承認。)

では、基本的に教育委員会の事務局にて進めていくこととし、今後ともご意見をいただきながらできるだけ迅速に対応していくこととする。

(3) 郡上市内の学校における不登校の現状と対応について
公開なし

市長： では最後に、教育次長と置田副市長にもそれぞれ一言いただきたい。

長尾次長： 私はこの3月で退職となるが、教育委員会に13年間勤務してきて実感するのは、教育に対し非常にお金がかかるようになったということである。配属された頃に比べると、不登校対策の実施や、生徒用タブレットの整備など本当に大きな予算を使わせていただいている。ただ、これは先行投資という意味合いも非常に大きく、来年度の予算査定の際にも、例えば、給食の無償化にあたってはアレルギーを持つ子どもに配慮した対応の指示をいただくなど、市長には大変ご理解をいただきながら色々議論を交わしてた。今後もそういった子どもたちへの先行投資として予算配分をお願いしていきたいと思う。

置田副市長： 本日は、本当に貴重な意見をいただきありがたく感じている。市長がいつも言われている「10年後、20年後の地域の姿を考え、郡上をどう残していくか」ということに直結する話ばかりであった。中学校と高校の連携についても、高校を残すことが地域を残していくことに繋がるということを改めて実感した。子どもの数がどんどん減ってる状況の中で、物理的に学校を残すことがより困難になっていくのは間違いなく、今いる子どもたちをいかに引き込めるかは、高校自体の魅力を深めていくことにかかってくる。郡上北高校の話があったが、例えば地域探求型学習に特化したような全国に類を見ないような学校にしていくことによって、郡上の子どもたちが魅力を感じ、さらには全国の子どもたちからも選択されるような学校となる可能性も出てくるのではないかと思う。また、プロジェクトチームという話もあったが、先生方が子どもたちと正面から向き合って色々なことを考え、一緒になって解決策を考えていくような環境を作っていくことも必要である。市長からも話があったように、先生を応援するようなプロジェクトということも考えていけるとよいと思う。

市長	：	では、以上で議事を終了し、事務局に進行をお返しする。 最後に市長公室長からも一言いただきたい。
河合室長		私も教育次長と同じく3月で退職となるため、この会議で皆様にお会いするのも最後になる。これまで大変お世話になり、ありがたく思っている。この総合教育会議には、企画課長の頃からお世話になってきたが、その頃から教育との関わり方を学ばせていただいた。今この立場になって一つ言えることは、郡上にはいろんな魅力があり、それは他のところにもしっかり伝わっているということである。他の会議の委員である大学の教授からは、ぜひ郡上と関わって、大学の生徒たちを連れて来て学ばせてみたいというお話もいただいている。そういった他の分野とも繋がりながら、それを子どもたちにも還元していければ、郡上にもっといろんな楽しみや魅力が増えてくるのではないかと感じているし、今後も期待していきたいと思う。

4. その他

特になし

5. 閉会 17:00

原教育長職務代理者